

# 探訪 北の風景 96

## キウス周堤墓群 千歳市

青木和弘

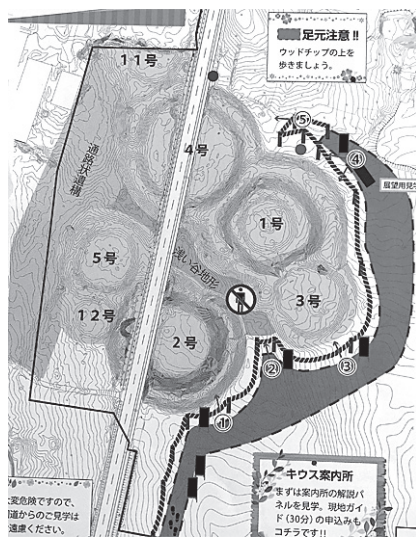
千歳市は、1、2月に記録的な大雪に見舞われ、雪解けが大幅に遅れている。2021年7月、ユネスコの世界遺産に登録された北海道・北東北縄文遺跡群の一つに、千歳市のキウス周堤墓（しゅうていぼ）群があるが、いまはまだ雪に埋もれたまま。約3200年前の縄文後期にできた周堤（円形の土手）をめぐらせた墓で、最大のものは外径が83メートルあり、堤の上面から底までの高低差が4・7メートルもある。その中に墓穴が何カ所かあつて埋葬されている。キウス遺跡には大小の周堤墓が9つあつて多くは一部が重なりあつている。

実は、恵庭市から苫小牧市にかけて周堤墓はいっぱいある。道東のオホーツク管内斜里町や根室管内標津町、そして芦別市にもあるのだが、これだけ大きくて保存状態が良く、見てすぐ分かるのはキウスであり、縄文時代の日本で最大の墓といわれる。似たものにストーンサークル（環状列石）があり、縄文中期から後期に東北から北海道にかけて造られ、住居域と区別した墓や祭祀の場ではないかと考えられている。周堤墓も同様の意味合いと思われているが、北海道にしかない。しかも、この時期だけで、以後のものはまったく発見されていない。縄文人の死生観に大きな影響を与える出来事が起きたのだろうか。

このキウス周堤墓は千歳市の北東部、馬追（まおい）丘陵の西麓の標高15〜21メートルの穏やかな斜面にある。サケ・マスが遡上して魚類を捕獲しやすい河川や沼が近く、背後には狩猟に適した落葉広葉樹の森が広がっている。

この石狩低地帯南部の千歳市は旧石器時代から人が暮らしてきた場所で、約3万年前や2万6000年前の石器が出土し、2万年〜1万2000年前から人々が定住しはじめた跡が見つかっている。気候が温暖になって、マンモスやヘラジカなどの大型獣は絶滅するが、広葉樹の森が茂り、浜辺の海産物が豊富になった。新千歳空港の滑走路の南にある美々地区辺りまで海が入り込んでいたので、美々貝塚からは、シジミやハマグリ、ニシンやヒラメの骨などが見つかっている。この地域は、樽前山などの火山の降灰が地層でよく分かるので、遺跡の年代特定がしやすい。

北海道・北東北縄文遺跡群の一つ、青森県の大



現地のパンフレットが分かりやすい。キウスの周堤墓は九つあるが、見学コースから見られるのは、入り口に近

分かってきている。千歳市は、2022年度からキウス周堤墓群の本格的な施設整備に着手する。これまでは、訪れ



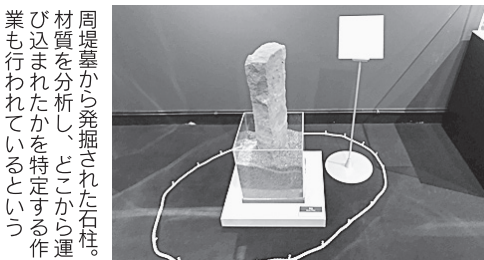




キウス周堤墓2号は、周堤墓を横断する道路側から堤の高さがよく分かる。訪問したときは発掘の再調査が行われていたときで、掘り返した場所が見て取れた。雪が解けて見学できるようになると、現地のボランティアガイドが、10時から15時まで、時間を決めて現地を案内し、解説をしてくれる予定だ



千歳市埋蔵文化財センターにキウス周堤墓群の展示コーナーがあり、出土物や解説を見ることができる



周堤墓から発掘された石柱。材質を分析し、どこから運び込まれたかを特定する作業も行われているという

でも、森の中を少し歩いて窪地を見下ろすだけで、何がどうなっているのかはよく分からなかった。いまは雪が解けると、駐車場の奥の案内所が開き、ボランティアの現地解説も始まるので、ぜひ利用するといい。

市は隣接地に200平方メートルの平屋を建設し、キウスの価値や、これまでの調査結果を伝える出土品や史跡のジオラマを展示し、石器使用や火おこしなど縄文文化の体験や、小規模な講演会などを開ける施設にする計画だという。

キウスの見学をする前に、ぜひ、千歳市埋蔵文化財センターを訪れてほしい。周堤墓群の解説や出土品の展示コーナーを先に見ておくと、遺跡の理解がぐんと深まる。ところが残念なのは、来訪者の多い土日祝が閉館（第二日曜日は開館）なのだ。ぜひ土日祝も開館してもらいたい。